

「IR (統合型リゾート) 等新たな戦略的都市づくり」検討調査 報告書 (2015 年 3 月 横浜市) 批評

1. 報告書の結論が曖昧である

- 検討調査を委託された (株) 日本経済研究所が市に提出した生の報告書そのものである。
- 報告書を受けての横浜市としての見解や方向性は打ち出されていない。
- 報告書自体は IR 導入を直接的に推奨するものになっていないが、経済波及、税収増、雇用創出などの効果を強調する中で、導入が必然であることを間接的に訴えている。公開後の IR の政治・経済情報の portal site におけるニュースでは、経済効果を中心に充実した報告書であるとの評価が多いが、その数字はあくまで前提に過ぎない。

2. 調査プロセスや手法の欠陥、不備

- 情報収集や整理もほとんどが既存資料、文献からの抜粋や引用に依っている。仕様書 (委託に当たっての) 上ではヒアリングも手段として挙げられているが、ごく限定的な有識者*ヒアリング (p. 33) 以外は採られていない。(* 対象不明)
- 犯罪対策、裏社会排除、money laundering 対応など : 日本における掘り下げがない。ギャンブル依存症と犯罪の関係の分析がない。
- 古いデータの使用が多い。(H17 年横浜産業関連表に基づいた経済効果算出 (p. 40) など)

3. 調査報告書自体の欠点、欠陥

- Casino を健全に運営してゆくための膨大な社会的費用についてまったく触れていない。そもそもその視点が無い。
- そもそもなぜ IR に Casino が必然なのかの合理的説明がない。
 - + なぜ Casino が “質の高い entertainment” なのか
- Casino 訪問客数見込み (国内 567 万人、海外 142 万人) は極めて恣意的で非現実的である。
- 高ギャンブル依存症国日本において、単純に他国の対策の参照、導入だけではまったく不十分であることは明白であるが、それについての言及がない。
- 仕様書では横浜市固有の懸案事項と対策を求めているが、欠落している。

4. IR(Casino)導入反対継続、拡大へ

- Casino 導入を国家の成長戦力にする誤りとそれに追随する愚
 - + Casino の本質はあくまで賭博であり、本来は社会で禁ずるべき営み
- 文化芸術都市を標榜するのであれば、もっと異なる創造性を追求すべし。
- そもそも法案未提出、審議ゼロの段階で導入へ向けた先行的動きは不当である。

<p. s.> 感想として : こんな程度の業務委託成果物に 570 万円もの大金をつぎ込むとはいかにももったいない。